

バッテリー再生

テルウェル西日本では、環境3R (Reduce、Reuse、Recycle) に「CO₂削減」をプラスした3R+CO₂のコンセプトに基づき、環境配慮型企業をめざす企業様の先進的取り組みを支援しています。この中でReduceの観点から「バッテリー再生」を本格的に取り組むため、バッテリー再生工場を設立しています。

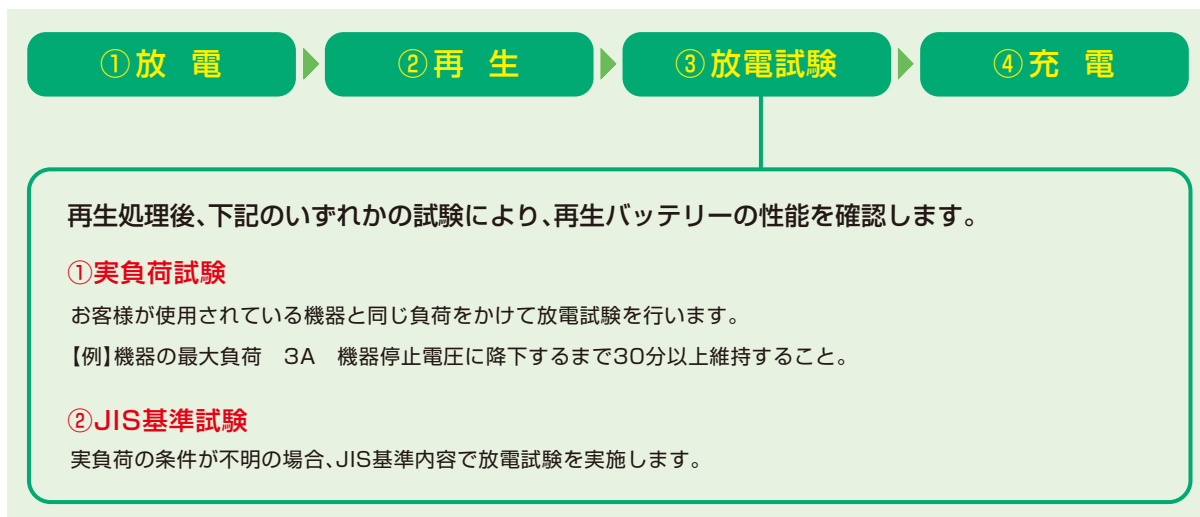
「バッテリー再生」を推進することにより、年間4,000万個以上捨てられているバッテリーの廃棄量を削減。環境汚染や危険な電解液の流出を防ぎ、循環型社会形成に貢献します。

【 目 的 】 産業廃棄物の抑制(CO₂等)に貢献し、かつ経費を削減します。

【再生対象電池】 小型 ニカド電池、ニッケル水素電池

【再生の流れ】 ①再生前に、放電試験を実施し再生前の状態を確認します。
 ②特殊なパルス電流にて再生処理を行います。
 ③再生後、放電試験を実施し、再生効果を確認します。
 ④充電後、お客様へ出荷します。

劣化したバッテリーの再生手順を下記に示します。



環境負荷低減に貢献するハードディスクデータ消去サービス

NTTホームテクノ*では、使用済みパソコンの確実なハードディスクデータ消去により、パソコンのリユース、リサイクル推進に貢献しています。

使用済みパソコンは中古パソコンとして再生(リユース)し、市場へ流通、再利用されることにより、新品パソコンの利用に比べ資源採掘から製品製造までの工程がなくなる等、環境面に大きな効果をもたらすと考えられます(図1)。

また、中古パソコンとして再生されない使用済みパソコンは、解体し、リサイクル(再資源化)されることで、環境負荷低減に効果をもたらすと考えられます。

使用済みパソコンのハードディスクには、個人情報や企業の機密情報等の重要な情報が記録されていることから、リユース、リサイクルを安全に推進するためには、ハードディスクに記録されたデータを確実に消去し、情報漏洩事故を防止することが不可欠となっています。

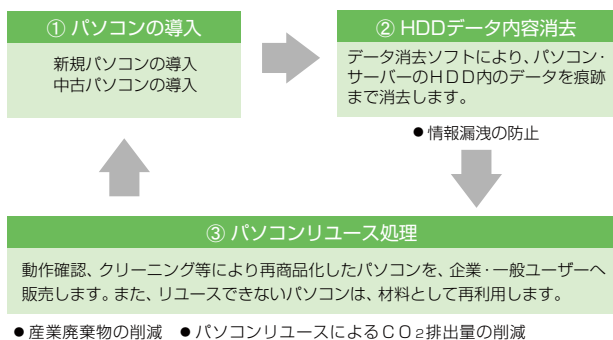
NTTホームテクノ*では、2002年からNTT西日本グループ内を中心に「ハードディスクデータ消去サービス」を提供し、使用済みパソコンのハードディスクに記録された情報を確実に消去することで、情報漏洩事故を防止し、リユース、リサイクルの円滑な実施に貢献しています。

※ NTTホームテクノは2013年10月1日、社名をNTTフィールドテクノに変更しております。

【2012年度 ハードディスクデータ消去実績】

NTT西日本グループ 1.4万台

図1 パソコンリユースの流れ



一般に、パソコンのHDDにフォーマット処理を行っただけでは、データ復元ソフトを用いることにより、容易に復元が可能であるため、JEITA(一般社団法人 電子情報技術産業協会)は、データ消去についてガイドラインを設けています。そのガイドラインでは、データ消去はユーザー自身の責任において実施するものとされ、①消去ソフトによる1回以上の上書き処理(ソフト消去)、②HDDを物理的、電磁的に破壊して読めなくする(物理消去)のいずれかによる対処を推奨しています(表1)。

表1 HDD消去方式

消去方式	概要	パソコンリユース	環境効果
ソフト消去	専用ソフトでHDD全領域に上書き	可能	新品抑制 資源活用
物理消去	電磁消去、HDDの破壊(穴あけ等)比較的短時間で処理可能	不可能	資源活用